

NPO法人

「畑と田んぼ環境」再生会

〜農ある生活を楽しむ〜

「畑と田んぼ環境」再生会

H28年12月14日、会報13号

編集：仲野 忠晴

<http://hatake-tanbokankyo.org/>

# 食と農の現状と

## 自給農の可能性

### (三)



害などで社会システムがダウンすると、自力では何も出来なくなっています。今回は、この様な現代社会において自給農の意義と可能性についてロシアのダーチャを参考に考えてみたいと思います。



#### ●ダーチャとは

ロシアのダーチャというのは、簡単に言えば「家庭菜園のある郊外の家」です。一般的な面積は、一区画六〇〇㎡(二〇m×三〇m)の広さで、その中に四〇㎡の広さで家を建て、ロシア国民の8割が所有しているそうです。ですから、ダーチャを所有することは、お金持ちだけの特権ではありません。ごく一般的な庶民も持っているのです。

ダーチャの歴史を簡単に説明します。ダーチャの言葉の語源は「ダーチ(与える)」で、直訳すると「もら

#### ●現代社会の豊かさ

私たちの住んでいる社会の豊かさは、モノとサービスによって支えられています。例えば食について考えてみると、冷凍食品やレトルト食品、そして、お惣菜、お弁当、ケータリングサービスなど、ほとんど自分で作らなくても十分に美味しい物を食べることが可能になっています。生活は、エアコン、洗濯機、電子レンジ、掃除機など、人間はほとんどボタンを押すだけで、

生活環境を快適にし、生活に必要なあらゆることを電化製品がやってくれます。また、家事や育児にしても、上の世代や母親から伝えられるものではなく、本やテレビ、インターネットで情報を収集し、料理学校などのサービスを買って習得するようになってきています。私達は、次々に提供される物やサービスをもらうことで幸せを求め、豊かな社会を実現してきました。そして、テ

クノロジーの発達が、このことを支え促進してきたのです。確かに私たちの社会は、モノやサービスによって便利で豊かになっています。しかし、一方で地球規模の環境問題、飽食と飢餓、年間三万人を超える自殺者、ガンや生活習慣病、アレルギー疾患の増加、イジメや教育の格差など、深刻な社会問題を生み出している社会でもあります。しかも、その便利な社会ゆえに、災

った土地」という意味です。一八世紀の帝政ロシア時代、当時の皇帝ピョートル1世は、パリのベルサイユ宮殿の景観を模してサンクトペテルブルグを作ろうとした。そのために宮殿から郊外に至る道沿いの土地を廷臣に与え、屋敷を建てさせ木を植えさせたことがダーチャの始まりだそうです。そして、一九世紀の帝政時代後半になると、貴族たちの避暑や社交場として賑わう「郊外に建てられた夏の家」を意味するようになります。ツルゲーネフの小説「初恋」は、モスクワ郊外のダーチャが舞台になっています。また、チエーホフも「桜の園」や他の作品の中に度々ダーチャを登場させ、彼自身もそこで創作活動をいそしむかたわら畑で野菜作りに精を出していたそうです。そして、ロシア革命でソビエト連邦が成立すると、すべての私有地は国有地となります。

一九三〇年代ころから職場から労働者に土地が無料で与えられます。ただ、ソ連時代なので、正確には無料で貸与されたということになります。これが、現在のダーチャの原型です。

福祉の一環で休息の場として郊外の土地が無料で与えられたということですが、その時々、社会問題を解決する目的をダーチャも持っていました。その一つは、ウオツカを飲み過ぎないようにするためです。大のお酒好きのロシア人は、週末にお酒を飲んで憂さ晴らしをして平日職場で仕事に支障をきたすことが多々あったそうです。また、アル中も深刻な社会問題でした。その解決策としてダーチャを与え農作業にいそしめば、お酒を飲む量が少なくなり、仕事への悪影響も少なくなるだろうと考えたわけです。

貨と両替できない特殊な事情がありました。このため外貨は非常に貴重でした。ですから、食糧の不足分を輸入するために多額の外貨を使うことは出来なかったわけです。では、どうしたのかというと、その解決策として「我が国には、食糧を輸入する外貨はなくても広大な土地はある。足りない分は、国民に作ってもらおう」ということで、ダーチャを与えたのです。いわゆる都市住民の兼業農家促進政策です。

そして、ダーチャが広く普及するきっかけとなった重大な出来事がありました。それは、ヒロシマ、ナガサキへの原爆投下です。冷戦時代、核の脅威の中、政府は、モスクワに核爆弾が落とされたときのことを想定してどうしたらいいのか、その対策を考えました。そして、爆心地から一〇〇キロ以上離れたところに避難すれば安全だろうと考え、一九五〇年代に郊外への道

路が建設されました。そして、ダーチャが急速に普及していったのです。

ソ連時代は、「ダーチャをください（貸してほしい）」と申し込めば、職場の労働組合を通じて「（貸しても）ラえた」わけですが、新生ロシアになると、ダーチャの土地は、そのまま使用者の私有地となりました。そして、現在は、自由に売買されています。

以上が、ダーチャの大きな歴史的な流れです。



●ダーチャでの暮らし

次にロシア人のダーチャでの暮らしを簡単に説明します。

週末が近づくと、ロシア人は、仕事があまり手につかなくなるそうです。ロシアの都市生活者は、週末や夏休みに家族でダーチャに行って野菜作りに精を出すことをとても楽しみにしているからです。ですから、

金曜日の夕方は、都市から郊外に伸びる幹線道路は「ダーチャ渋滞」になります。日曜日の夕方は、逆方向に車で道路が埋め尽くされます。中には、夜中に車を走らせ、職場に月曜の朝直行する人もいるそうです。モスクワをはじめとする都市が土日に閑散としているのは、都市生活者がダーチャに行つて、いないからです。

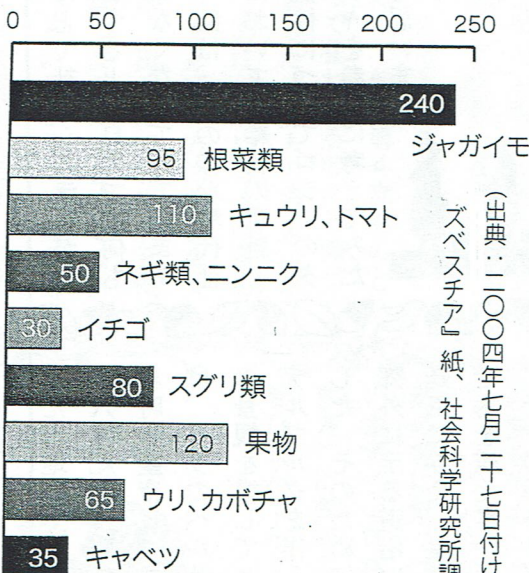
では、その野菜作りの実力はどうでしょうか。

「100平方メートルの畑で、ひと夏に三〇〇kgの野菜がとれます」とダーチャ

ヤのハウツー本に載っています。実際、ダーチャでの生産量は、農家顔負けです。

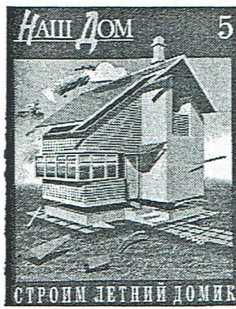
「ロシア国家統計局の二〇〇三年のデータによると、国内の三四〇〇万世帯の8割が菜園を持つか野菜作りの副業経営を行い、同国のジャガイモ生産量の九二%をまかなう」（『東京新聞』二〇〇四年四月一日）という事です。もちろん、ジャガイモだけではありません。トマト、キュウリ、人参などの野菜は言うに及ばず、果物やベリー類も育て、ピクルスやコンポート、ジャムなどを作つて保存食

600平方メートルあたりの収穫高(単位・kg)



(出典：二〇〇四年七月二十七日付け『イヌベスチア』紙、社会科学研究所調べ)

\* 年間収穫物の査定額 12,325ルーブル



にしています。また、ダーチャ周辺でのキノコ狩り、川や湖での魚釣り、森でイノシシを仕留めるなど、それらが食卓を多彩にしています。しかも、ほとんどの人が、ダーチャで過ごす家を自分で手作りしているのです。もちろん、素人ですから、最初は何も出来ませんでした。でも、急がずに時間のある時にゆつくりと作業を進めていくことで、大工仕事が出来ようになつていきます。ロシア人は、ダーチャで、ある時には農家、ある時には大工、そして、またあるときは漁師や猟師となつて思い思いに過ごし、職人はだしの技を日々磨いているのです。

ソ連時代の家づくり本『私たちの家』。『ダーチャづくりは、ほとんど自分でできることばかり』(序文より)。

このためダーチャで過ごすことは、子どもたちにとっても成長を促す大事な学びの場となっております。ロシアの学校の夏休みは3ヶ月、両親は共働きが一般的なので、子どもはお爺ちゃんとお婆ちゃんとい足先にダーチャに行き、その後には両親と合流します。この期間にダーチャで過ごすことは、学校では学べないことを自然から学び、また、お爺ちゃん、お婆ちゃん、普段の都会生活とは違ったダーチャで過ごす両親の姿から生活に必要な知恵と技が伝えられ、家族の絆を強めたり、再確認したりする貴重な時間となっております。

この様に書いてくると、ダーチャはいいこと尽くめのように感じますが、ここまでくるため成されてきた見えない努力は、並大抵でなかつたことをお忘れなく。なぜなら、ダーチャのある場所は、都市近郊の条件が悪く使い道もない、しかも水道も電気もガスもきていない不便な土地だったからです。素人で最初は何も出来なかつたロシアの人達は、そこに自分で家を建て、畑を耕し、時間をかけて少しづつ環境を整えることをしてきたのです。もし、この地道な作業がなかつたならば、現在のダーチャは存在しなかつたでしょう。だからこそ、ロシア人は、ダーチャに愛情が湧き、それが親から子、子から孫へと受け継がれてきているのです。



### ●セーフティーネットとしてのダーチャ

ロシアの歴史を振り返ってみると、ダーチャの果たした大きな役割は、セーフティーネットと言えるでしょう。第2次世界大戦後の食料難、一九九〇年代初頭のソ連崩壊後の混乱の中で食料不足、これらの非常事態を回避できたのは、ダーチャのお陰だったからです。特にソ連崩壊後は、商店には物がなく、先を争って商品を買う人の映像が、日本のテレビにも何度も放映されました。実際、この当時のロシアは、給料の遅滞や現物支給は日常茶飯事でした。しかし、「カネがなくモノもないなら自分で作ろう!」と畑で野良仕事にいそしみ、ダーチャをフル活用しました。そのため都会には物が無くても郊外のダーチャには、新鮮な野菜や卵がいっぱい。激動のロシア”を取材していたNHKのスタッフが、都会とダーチャの違いを体験して思わず絶句したそうです。ここで大事なことは、自然の中でお金をかけず、手間暇かけたダーチャでの暮らしが、経済危機を自力で乗り越える力を育んできたということです。

「一度便利な暮らしに慣れてしまうと、もう昔の生活には戻れない」と言う人がいます。本当にそうでしょうか。ダーチャでの暮らしは、決して便利なものではありません。何より手間と時間を掛ける手作りの生活です。でも、その生活の中で体験することは、大自然の営みに合わせて生活することの安心感、生命力に満ち溢れた農作物を育てたときの達成感、創意工夫することの楽しさ、からだ全部を使つて汗を流す作業の清々しさ、自分でいろいろなことが出来るようになっていくことの充実感です。果たして物質的に豊かで便利・快適な生活が、この素晴らしい体験を与えてくれるでしょうか。また、これらの体験なしに与えられたモノやサービスを消費するだけで、自分自身が本来持っている潜在能力に気がつき、それを伸ばしていく楽しさを体験することが出来るのでしょうか。

自然災害、経済危機、事故による社会機能の麻痺な

ど、私たちが生きていくときにも思いもよらない出来事が起きます。このときセーフティネットになるのは、便利な機械や物がなくても自分の体と頭を使って自力で生きていける逞しさです。私たちが、ダーチャの農のある生活から学ぶべきことは、このことではないでしょうか。そして、ここには、自給農の魅力すべてが満ち溢れています。

不安や恐れからではなく、不便を創意工夫する機会として楽しみ、体全部をフル活用してもらたられる心地よい疲労感のある生活が、心豊かな感受性と体力、そして緊急時のセーフティネットになる力を育てているのです。これは、とても素晴らしいことです。



### ●生活を整える力

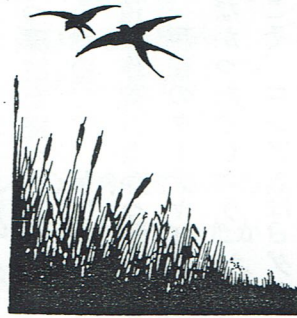
都市とダーチャを行き来するロシア人の農的生活を見てみると、農のある暮らしが、生きることに豊かさや強さを与えていることがわかります。その源泉は、生きていく上で必要なものを自分で作ったり育てたり、体全体を使って家事の一つひとつをこなしていく日々の体験です。これが、社会システムに過度に依存しないアナログな知識と能力を育て、自分の生活を自分で整える力を培っているからです。

自然の中で多種多様な生き物と共に農作物を育てる。そして、折々の季節の中でその恵みを喜び、それをいただく。農のある生活は、知識ではなく体験からいろいろなこと考えさせられ、気づかせてくれます。自然のリズムで生きることの心地よさ、食べ物に対する感謝の気持ち、植物の生命力、いのちのつながり、子育てのヒントなど、人工物に囲

まれた都市生活では経験できないものばかりです。そして、これらの体験は、心の安らぎとゆとり、潤いを生活に与えてくれます。週末に多くの人が、①農薬・化学肥料は使わない②草や虫を敵としない③余計なエネルギーや機械を使わずに手作業で汗を流す、そして④自然の循環を妨げないで野菜やお米を育てていけば、自ずから生活を整える力が培われ、環境、食、医療・健康、教育などは、お金をかけなくても驚くほど改善され、日本の社会を根本から良くしていく土台作りができるでしょう。

### ●農が大切な理由

最後に、なぜ農がとてもとても大切なのか、その理由を書きます。



まず大事な事実が三つあります。

一つ目は、この世界には、大自然の摂理だけがあるという事です。これ以外は、存在しません。そして、人間がこの先だけだけ科学技術を発達させて様々なものを発明しようとも、この大自然の摂理を変えることも超えることも出来ないという事です。大自然は、一見、矛盾するものや対立するものを混在させています。それが不思議に補い合い、絶妙なバランスを取って変化し、調和しています。そして、大自然の摂理が、多種多様な生命を生み出しました。ですから、私たちが常に心に留めておくべきことは、この大自然の摂理です。

次の事実は、大自然が人間を生み出したということです。ですから、当然人間は、大自然の一部であり、大自然の法則に沿って生きようとする働きを内在させて

ています。実際、人間の生命の営みを考えてみると、意識ではなく意識できない「自然の生命の働き」によって維持されていることがわかります。例えば、私たちは、自分の意思で心臓を動かしたり止めたりすることは出来ません。また、栄養のある食べ物を食べたとしても、その栄養分をどれだけ吸収するかは、意思の力ではどうすることも出来ません。この他にも、病いやケガをしたときには、自然に体の治癒力が働いて治そうとしてくれます。意思の力で自然治癒力を発動させ治しているのはありません。この様に、生命活動は、私たちの意思を超えた領域の働きによって支えられているのです。しかし、人間は、他の生物と違い精神活動の領域が大きいためにこの事実を忘れ、自分の意思で何でもコントロールできるかのように錯覚し、この働きを無視した生き方をしてしまいます。

最後は、人間の行方あらゆる活動の中で、農だけが大自然と直結してストレートに交流できる場だということ。そこでは、人間が行ったことに対して、自然は私心なく摂理に沿って結果を示してくれます。しかし、他の活動は、その時々々の時代や社会の価値観から作られた決まりや規則の中で人間が判断し評価をします。そのため、自己中心的な利害得失が優先されると、様々な混乱や問題を引き起こしてしまいます。人間の判断は、相対的で、我欲、小欲に流されてしまうことが多々あるからです。このため謙虚に大自然の摂理に耳を傾け、その声を聴こうとするのは、とても大事なことです。ですから、暮らしの中に農があるということ、人間が自然の法則に沿って豊かに生きようとするための羅針盤になるのです。農を通して大自然との対話を繰り返していけば、生きていく上で何が本当に



必要なか、何が大切なのか、何が重要なのか、その優先順位も自ずとわかってくるはず。なぜなら、私たちは、この大自然の摂理と一体となつて生きようとする生命の働きを持って生まれてきているからです。私たち人間にとって農がともとても大切であるのは、この様な理由からです。そして、ここに自給農の意義と意味があります。これらの事実から考えていけば、私たちの社会をより良い方向に変えていくためには、自給農をベースに各自の役割を分業していくことだと考えられます。自給農の素晴らしさ、楽しさは、体験してみなければわかりません。一人でも多くの人が、農を生活に取り入れ、いちが喜ぶ生き方を実践し、日々の生活を豊かにしていくことを心から願っています。

参考文献 (仲野忠晴)  
『ダーチャで過す緑の週末』 (豊田菜穂子著、WAVE出版)

### 自給自足の本の紹介

#### 「山猿流 自給自足」

(青木慧著、創元社)

読んでみてビックリ！日本人も決してダーチャのロシア人に負けてはいません。この本は、還暦からはじめた丹波の自然暮らしです。内容は、自作住宅、創作家具、食糧自給、自然養鶏、山水を利用したアマゴとコイの養殖、自家採取、棚田再生、森林保全などなど、ジャーナリストの著者の十年間の自給自足生活で得た経験が、多数の写真と共にまとめられています。そして、どの内容も随処に社会問題と絡ませながら、筆者の考えたことや実践したことが書かれているので、とても示唆に富み、読んでいて本当に面白い。

なぜにこの本を書いたのか、その理由を「世界企業を批判したり、地球環境問題なども、口先だけで立派な議論ができ理屈はわかっ



ているのに、現実にはなかなか事態が変わらない現状に苛立ちを覚えていた。残る半生は、まず自分が実地に理想をどこまで追求できるのか試すことに賭けていた。・・・他人からの聞きかじり出はなく、自分が実地に直接、自然に接し体験し、自分が何を学び何を實現したのか、その実地体験の取材で得た事実を中心に書き続けていこうと考えた」と著者は言っています。素晴らしい！

しかし、還暦からこれだけのことをこなすパワーと意志の力、感動です。感服いたしました。



#### 農家が教える

#### 自給農業のはじめ方

(中島正著、農文協)

農家六〇年、平飼い養鶏の大ベテランが語る自給農業の入門書です。薄い本ですが、拡大再生産は、資源の浪費、環境破壊、ゴミの



増大、モノあまりのデフレ不況の要因、小規模農家を増やすことが、村の荒廃や、食の安全を守ると看破し、きちんとした農業論を展開しています。そして、養鶏を軸に、自給生活の知恵と技術を説明。水稲・陸稲と麦を合わせた栽培方法、果樹、農産加工など、経験に裏打ちされた内容となっています。また、「大切なのは持続することであつて、急いで成果を求めることではないのである。持続さえしていれば、成果は必ず後からついてくる」と述べ、農業機械による耕起、農薬、化学肥料を否定しています。が、よくある根性論・努力ではなく、自分の体力に合わせた「工夫」と「いい加減さ」を大事にしています。筆者は、「都会のワーキングプアより田舎の自給百姓を！」と言います。ん、言えてるかも。



# 有機栽培・自然農法に 適した種の紹介

有機栽培・自然農法でおいしい野菜を作るには、自分の好みと畑に合った種を選ぶことが大切です。特に露地栽培の場合は、自然の中で、雨や風、寒さなどに鍛えられながらすくすく育つ種が、求められます。

今回は、ベテラン農家おすすめのそんな種を紹介です。自分の畑にぴったり合った品種を探してみてください。なお、種はF1と固定種の両方を紹介しています。F1の作り方には問題も指摘されていますが、単純にF1が悪い、固定種が良いと先入観で決め付けないほうがいいです。確かにF1の作物を自家採取して次世代を育ててみると、親と同じ形質の作物は出来ません。しかし、1種類の種子で多様な品質の野菜が出来るので、野菜の環境適応性が高くなる面もあります。また、その中で気に入ったものを繰り返し採取をしていくと、独自の固定種も出来ます。

これは自給農だからこそ出来る楽しみです。理屈先行ではなく、観察と経験から自然の不思議さを体験していきましょう！

\*野菜と共に表記している会社名などは、種の手先です。

\*★は固定種です。

トマト/ミニトマト	【妙紅】「メニーナ」(ともに自然農法国際研究開発センター)、【レッドオーレ】(カネコ種苗)、【サンチェリー 250】(トキタ種苗)、【マスター 2号】(タキイ種苗)	【雨ニモ負ケズ】★、【麗夏】【アイコ】【イエローアイコ】(ともにサカタのタネ)	
ナス	【緑ナス】(秀明自然農法ネットワーク)、【千両二号】(タキイ種苗)、【加茂大芹川丸茄子】(野口種苗研究所)	【深谷ナス】★、【黒陽】(タキイ種苗)	【長崎長茄子】★、【真黒茄子】★
ピーマン/トウガラシ	【下総 2号】(みかど協和)、【翠玉二号】(サカタのタネ)、【万願寺甘とう】(自然農法国際研究開発センター)	【京波】【伏見甘長】(ともにタキイ種苗)	【魁】★、【京みどり】(タキイ種苗)、【カリフォルニアワンダー】(浜名農園)
キュウリ	【上高地】【バテシラス 3号】(ともに自然農法国際研究開発センター)、【さつきみどり】(サカタのタネ)、【つばさ】(タキイ種苗)	【バテシラス】(ともに自然農法国際研究開発センター)、【風神】(カネコ種苗)	
カボチャ	【九重栗】(カネコ種苗)、【栗坊】(サカタのタネ)、【白鷲】(渡辺探種場)	【東京カボチャ】★、【鶴首カボチャ】★、【そうめん南瓜】★、【雪化粧】(サカタのタネ)	【白みくり南瓜】(ヒザワ種苗)、【坊ちゃん】(みかど協和)
ズッキーニ	【モスグリーン】(ナント種苗)、【ゴールドトスカ】(サカタのタネ)	【ダイナー】(タキイ種苗)	
ゴーヤー	【さつま大長苦瓜】(中原探種場)、【沖縄願寿ゴーヤー】(野口種苗研究所)	【あばしゴーヤ】★	【中長】★
トウモロコシ	【甲州】★、【キャンベラ 90】(タキイ種苗)	【ハニーバンタムピーター 610】(サカタのタネ)	
オクラ	【島オクラ】★、【八丈オクラ】★		
インゲン	【白インゲン】★、【舞姿】(サカタのタネ)	【黒種衣笠】★、【さつきみどり 2号】(タキイ種苗)	【モロッコ】★、【いちず】(カネコ種苗)
ラッカセイ	【ジャワ 13号】★、【ナカテウタカ】★、【おおまさり】★		

ダイズ	『青山在来』★、『小糸在来』★	『津久井在来』★ 『丹波黒』★、『黒』★、『タマホマレ』★、『インバミドリ』★	
ジャガイモ	『男爵薯』、『キタアカリ』、『アンデス赤』、『メークイン』、『シャドークイーン』、『マチルダ』	『トヨシロ』、『花標津』、『マチルダ』	
ニンジン	『ベーターリッチ』(サカタのタネ)、『新黒田五寸』(タキイ種苗)、『小泉冬越五寸』(みかど協和)	『黒田五寸』(中原採種場)、『US春蒔五寸』(横浜植木)	『ひとみ五寸』(カネコ種苗)
ダイコン	『聖護院大根』、『大蔵大根』(ともにサカタのタネ)、『耐病干し理想』、『耐病総太り』、『おふくろ』(ともにタキイ種苗)	『青首宮重長太』、『天安紅心』(ともにサカタのタネ)、『おふくろ』、『干し理想』(ともにタキイ種苗)、『赤大根』(トーホク)、『大高三浦』(みかど協和)、『福美人大根』(横浜植木)	『五木赤大根』★、『秋づまり』、『おしん』(ともにタキイ種苗)
カブ	『スワン』(タキイ種苗)、『みやま小かぶ』(野口種苗研究所)	『たかね』(サカタのタネ)	『あやめ雪』(サカタのタネ)、『こけしかぶ』(日本農林社)、『白鷹』(武蔵野種苗園)
サツマイモ	『ベニアズマ』、『関東83号』、『金時』、『太白』	『ベニアズマ』、『関東83号』、『安納イモ』、『アヤムラサキ』、『パープルスイートロード』	
サトイモ	『石川早生』、『唐芋』、『ハツ頭』	『大野いも』、『セレベス』、『ウーハン』、『土垂』	
ショウガ	『三州』	地元の在来品種	『近江』、『三州』
ハクサイ	『雪風』(サカタのタネ)、『金将二号』(タキイ種苗)	『雪風』(サカタのタネ)、『金将二号』、『冬峠』(ともにタキイ種苗)	『無双』(タキイ種苗)、『舞の海』(トキタ種苗)
キャベツ	『アーリータイム』(サカタのタネ)、『彩里』、『晩抽理想』(ともにタキイ種苗)	『金系201号』、『金春』(ともにサカタのタネ)、『晩抽理想』(タキイ種苗)	『浜岬』(タキイ種苗)、『トンガリボウシ』(日本農林社)、『富士早生甘藍』(野口種苗研究所)、『冬のぼり』(野崎採種場)
ブロッコリー	『緑嶺』、『緑帝』(ともにサカタのタネ)、『ハイツSP』、『シャスター』(ともにタキイ種苗)、『彩麟』(トキタ種苗)	『エントパーSP』(タキイ種苗)、『スティックセニョール』(サカタのタネ)	
コマツナ	『城南小松菜』★、『みすぎ』、『なかまち』(ともにサカタのタネ)、『新黒水菜小松菜』(日本農林社)	地元の在来品種★	『城南小松菜』★
チンゲンサイ	『中国チンゲンサイ』★、『青帝』(サカタのタネ)、『長陽』(タキイ種苗)		
ハウレンソウ	『まほろば』(サカタのタネ)、『日本ほうれん草』、『豊葉ほうれん草』(野口種苗研究所)	『バレード』(サカタのタネ)、『雪美菜』(雪印種苗)	
レタス	『シスコ』、『晩抽レッドファイヤー』、『グリーンウエーブ』(ともにタキイ種苗)、『青チマサンチュ』(浜名農園)	『シスコ』、『サクラメント』、『レッドファイヤー』、『グリーンウエーブ』(ともにタキイ種苗)	『美味タス』(トキタ種苗)、『みずさわ』(日東農産種苗)
タマネギ	『湘南レッド』(サカタのタネ)、『パワー』(タキイ種苗)、『泉州中甲高黄大玉葱』(野口種苗研究所)	『ターボ』(タキイ種苗)	
長ネギ	『ホワイトスター』(タキイ種苗)、『汐止晩生葱』、『下仁田葱』(ともに野口種苗研究所)	『塩田ネギ』★、『坊主知らず』★、『金長3号』(みかど協和)、『牛の角』★	



## 《会員探訪 ぴーたんが行く！③》

鈴木 みゆきさん  
(愛称：ミラアルト)  
ピース田んぼ歴2年

こんにちは。稲の妖精、ぴーたんです。たまたまピース田んぼに現れたことから「ぴーたん」と呼ばれるようになって、NPO法人の非公認キャラクターとして活動しています(これと言って何もしてないけどね)。地上に降り立って早一年、地球でやっていたいけるかなって最近妖精ながらもちょっと心配になってきてね、会員一の占い師、西洋占星術セラピストのミラさんに相談しに行ってきたよ。

「ぴーたん、まず誕生日と生まれた時間を教えて」「え、時間も？」  
「そう。時間がわかることで、より正確に占うことができるんだよ。」  
「えーと二〇一五年十月三〇日で、時間は一五時頃」  
そう伝えたら、ミラさんが大笑い。何、何？

「ぴーたんは蠍座なんだけど、生まれた時間の東の空にあった星座(アセンダント)が魚座で、ここが魚座の人は目が大きくて愛らしくて、うるうるしてることが多いんだよ。そして不思議ちゃんな外見、ファンシーな装いが大好き。まんまだね(笑)」

本当だ！ でもミラさん、そもそもぴーたんは人じゃないけど占えるの？  
「生まれた時の星の配置を読み解くから、人に限らないんだよ。会社の設立をいつにするか占う社長さんも結構多いしね」

そうなんだ。それなら畑と田んぼ環境再生会の設立は……、あ、やっぱりぴーたんの話が先。

「月星座は双子座で、好奇心旺盛でとてもおしゃべり好き。広報活動に向いているね。それに蠍座はとても粘り強く、いざという時とても頼りになるタイプ。雨の日も風の日も田んぼを見守りながら、周囲の生き物や空の星たちとおしゃべりしてそう」。すごい。なんだか見られてたみたいだあ。

「西洋ホリスティックなメディカル占星術というのもあって、生まれた季節や星座で体質の傾向があるから、それに対応するハーブを紹介するね。これで元気スイッチを入れてみて」

畑や庭先、ベランダで星座ハーブを育てみるのも面白いね。ぴーたんもヨモギとバジルでこの冬を乗り切ってみる！ ミラさん、ありがとう。

季節

春

夏

秋

冬

・春生

・夏生

・秋生

・冬生

※どの

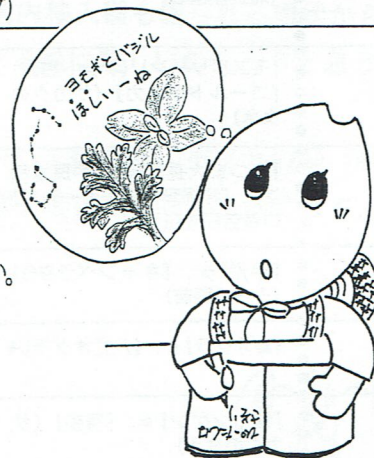


～西洋占星術で占ってもらおうの巻～

星座	対応する身体部位	ミラさんのおすすめハーブ
牡羊座	頭部、首の第一頸椎より上すべて	ローズマリー（記憶力をよくする、心臓の働きを助ける）、ガーリック（体を温める、抗菌作用、風邪予防、利尿作用）
牡牛座	首、喉	セージ（風邪予防、気管支炎、喉の痛みの緩和）、リコリッシュ（気管支炎、呼吸器系の炎症に効果、ストレス緩和）
双子座	肩、肩甲骨、腕、手、指	レモンバーム（神経を落ち着かせる、頭痛や吐き気の緩和、心臓と心を活気づける）、ラベンダー（抗炎症作用、リラックス効果、気管支炎などの予防・緩和）
蟹座	胸、肋骨、肺、胃、肝臓、乳房	ハコベ（便秘の改善、膀胱炎の緩和、虚弱体質の緩和）、ペパーミント（胃腸の調子を整える、鼻づまりや頭痛の改善）
獅子座	心臓、背中、胸椎、横隔膜	セントジョーンズワート（抗うつ作用、不安や緊張、恐怖、ストレスを和らげる）、サフラン（生理痛、生理不順、冷え症などの女性特有の症状に）
乙女座	腹、腸、脾臓、胃	ディル（胃腸や消化器系の不調に有効、母乳が出やすくなる）、フェンネル（消化促進作用、胃のもたれ、便秘の解消）
天秤座	腎臓、膀胱、尻	タイム（利尿作用、抗ウイルス作用、集中力アップ）、パセリ（利尿作用、肝臓と胆のうのデトックス効果、消化促進作用）
蠍座	生殖器官、膀胱、肛門、尻	ヨモギ（生理痛や冷え症の改善、血行不良による冷えの改善）、バジル（ガンや動脈硬化など予防する抗酸化作用、鎮静作用、リラックス効果）
射手座	腰、尾骨、大腿骨	タンポポ（肝臓を強化する、血糖値を下げる、利尿作用でむくみの改善）、オレガノ（リンパの流れを良くする働き、利尿作用、脂肪の蓄積防止・脂肪溶解）
山羊座	膝、ハムストリング、骨	ナズナ（利尿作用、便秘改善）、ジンジャー（発汗、血液の循環をよくする、保温効果）
水瓶座	足、脛骨、腓骨	ユーカリ（抗ウイルス作用、老廃物を外に出す、鼻づまりの緩和）、カモミール（鎮痛、ストレスを和らげる、不眠に有効）
魚座	足、足首、つま先、リンパ	エキナセア（免疫賦活作用、抗ウイルス作用、風邪予防、下痢や膀胱炎）、ジャスミン（鎮静作用、うつの気分の解消、生殖機能能力アップ）

- れ……熱・湿タイプ（皮膚は熱くて湿っていて、肉付きが良い。食欲旺盛）。
- れ……熱・乾タイプ（皮膚は熱くて乾いていて、体は引き締まっている。脈は速く消化能力がある）。
- れ……冷・乾タイプ（皮膚は冷たく乾いていて、体毛が少ない。消化能力より食欲が勝る）。
- れ……冷・湿タイプ（皮膚は冷たく乾いていて、体毛が少ない。消化能力より食欲が勝る）。

ハーブもあくまでも目安です。個々の体質やその日の体調などに十分注意してご利用ください。



# 〈尾山耕地 田んぼの生きもの調査結果〉

報告書作成：大木悦子



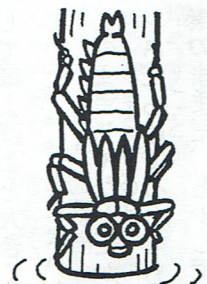
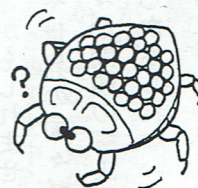
- ・調査実施日 2016年7月11・16日  
(11日会員管理の5箇所にて大木が調査、16日参加の皆さんとの調査)
- ・調査方法 網による採集
- ・○幼稚園管理以外の田んぼにて確認

- 1○ 両生類 カエルの幼生 (オタマジャクシ)
- 2 甲殻類 ミジンコ
- 3○ 甲殻類 アメリカザリガニ
- 4 貝類 ヒラマキミズマイマイ
- 5 貝類 ヒメマルマメタニシ
- 6 貝類 ヒメモノアラガイの仲間
- 7 ミミズ類 イトミミズ
- 8 ヒル類 ウマビル



## 水生昆虫

- 9 トンボ目 モートンイトトンボ (成虫・幼虫)
- 10 トンボ目 ウスバキトンボ (成虫・幼虫)
- トンボ目 シオカラトンボ (幼虫)
- 11 コウチュウ目 マメガムシ
- 12 コウチュウ目 ヒメガムシ
- 13 カメムシ目 コマツモムシ
- 14 カメムシ目 コオイムシ (幼虫)
- 15 カメムシ目 イトアメンボ (成虫)
- 16 カメムシ目 ヒメアメンボ (成虫・幼虫)
- 17 カメムシ目 ケシカタビロアメンボ
- 18 ハエ目 ガガンボの仲間 (幼虫)
- 19 ハエ目 ホソカ (蛹)
- 20 ハエ目 カの仲間 (幼虫)
- 21 ハエ目 ユスリカの仲間 (幼虫)
- 22 ハエ目 コガタノミズアブ (幼虫)
- 23 カゲロウ目 カゲロウの仲間 (幼虫)



植物

ウキクサ

イチョウウキゴケ

ウキゴケ

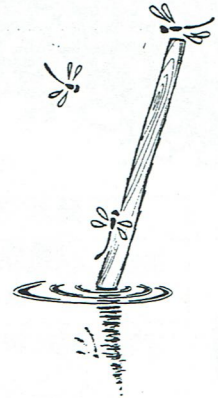
シャジクモの仲間

トチカガミ科イバラモ属 (イトトリゲモ?)

イボクサ

○ミズニラ

他



〈考 察〉

調査した7月中旬、赤とんぼの羽化はすでに終わる時期で、ヤゴは観られなかった。

モートンイトトンボの羽化のピークは6月下旬だが、まだヤゴが観られた。

南方から飛来したウスバキトンボが飛び、ヤゴも観られた。ウスバキトンボは、羽化しても冬を越すことはできない。

コマツモムシが多数観られたのは、水深のある溝があることによると推察される。

イトアメンボは全国的に生息が確認されているのは数箇所しかないとされる。

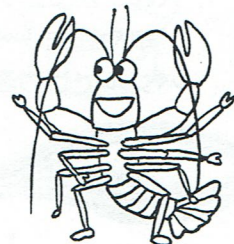
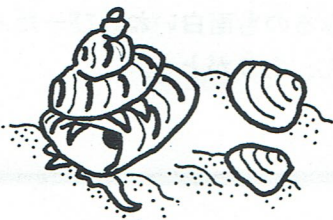
神奈川県でも絶滅種であったが、尾山耕地で確認されて県の絶滅危惧ⅠA類に指定された。環境省絶滅危惧Ⅱ類。

ヒメイトアメンボはイトアメンボよりもわずかに小さいが、よく似ているので間違えやすい。

西日本で確認されているヒメマルマメタニシは、関東で在来種としての記録が無く、国内移入の外来種かもしれないそうだ。

いたるところタイワンシジミに置き換わり、国内移入種も観られる現状からすれば、新しく確認された生きものが在来かどうかを判断するのは難しいのだろうと思う。

・16日は小さなケシカタビロアメンボをルーペで観たり、ホソカの蛹(当日わからず後日、図書館の図鑑で確認)に首をひねり、多様な植物も観ることができて、参加の皆さんと楽しい調査になりました。



# 会員フォーラム

会員の皆さんの思いや考え、体験したことを紹介するコーナーです。

## 私にとっての農業

眞継 裕己(マギー)

私は四十年ほどの前のオイルショックと呼ばれた時期に、丹波のとある里山で生を受けました。私が生まれたところはタバコ農家として生計を立てていたそうです。そこに住んでいたのは五歳ぐらいまででしたが、茅葺屋根の家、五右衛門風呂、目の前に広がる田圃と山々、夏にスイカを冷やした井戸、それらは私の原風景として深く心に刻まれています。ちなみにオイルショックの影響はほぼなかったはずで、トイレトペーパーが無くても糞をたたけば優しくお尻をふける事みんな知っていましたから。ちなみに保育園には通っていませんがその記憶は全然ありません。覚えているのはカエルとか小川のシジミとかです。

五歳ぐらいになつた頃、父親の仕事の都合で大阪の郊外に移り住むことになりました。コンクリートの団

地と水洗トイレ、一学年三百人を超えるマンモス小学校への入学。幼少の私にとって大きな大きなインパクトでした。やがて思春期を迎え都会で育つたみんなのとのギャップを感じ始めた私にとって、丹波の田舎に帰ることは、とても大事な癒しでした。多少ぐれ始めた高校生の時も何故か気が付けば優しいおばあちゃんに飛ばしてました。本能的にバランスを取りたかつたんでしょね。

それから大学生を經由して、気が付けばガラガラした都会の魅力の真ん中で社会人と呼ばれる存在になっていました。満員電車とスーツ姿に疑問を感じながらも、そんな中、あの東日本大震災を経験する事になりました。当時の東京で生活する不安の中、何度かボランティアの為、被災地に足を運ぶ中、人間ってなんだろう、文化ってなんだろう、自然ってなんだろう、私ってな

んだろっていう疑問が蘇り始めました。私の中のパニックが収まりかけた頃「やりたいことは諦めちゃいけない！」って事でした。

そしているんなことにチャレンジして「畑と田んぼ環境再生会」と出会いました、その中で一番感じたことは「分け合える喜びでした」、古き良き日本もかしら、それはおとぎ話でまだ実現されていない事かもしれませんが、このみんなと一緒に作業しているとそれが実現できるかもしれないと思ってしまう。大げさかもしれませんが、日本や世界の国々が抱える様々な問題の解決策が見つかるかもしれない。言葉足らずですが直感的にそう思います。

ということこれから農ある道を楽しみながら進んでいきます。

## ライフシフト

ペンネームきよきよ

先日新戸研修田で出来た新米を頂いたので、早速ご飯を炊いた。炊き上がったご飯は、びかびか&つやつやでいい香りがふわっと広がった。一口食べて驚いた。本当に美味しい!!玄米なのに!!

実は玄米はちよつと苦手だったのだ。それなのに、イケる!もりもり食べられる!噛めば噛むほど甘みとおいしさが口の中に広がる。あー感動、まさか自分がこんなおいしいお米を作れるなんてと感動しきりだった。数年前、気づいたら会社と家を往復しているだけで、活動範囲や交流範囲がぐっと狭まって、たぶん心も狭まっていた。(体は反比例してぼよぼよと大きくなっていた。。。笑えない!!)このままじゃなんだかストレスだらけで心も体も不健康のまま、と少しずつもがき始めたなかで、東京のサラリーマン生活をやめ長



野の実家で自然農でのコメ作り&野菜作りを始めた人に出会った。

コメ作りや野菜作りを体験させてもらい、スッキリした。そういえば私の実家でも自家用野菜作りをしていて、自然農だよなあとか気づいた。季節ごとにできる野菜がおいしすぎて、山盛りの野菜を食べていたのに、最近はずっと季節感のない野菜(そもそもいつが旬なのかもわからないかも)しかない自分が怖い)をちょっとだけしか食べてない。ほかにも、子供のころは自然に満ち溢れた毎日だったよな。里山を駆け回って木の実や蛇いちご、アケビを食べたり、稲を刈り取った後の田んぼで、稲の根元をカシユツカシユツと踏んで回ったりするのが好きだったな。とか思いました。やっぱり自然を感じながらの生活が好きなんだなあ、百姓的な生き方にあこがれてるんだと気づいたのだった。

相模原でそんな生活ができる?と思っていたら、「自然農」「自作人」という記事が目にとまった。それがこのNPO法人との出会い。心が求めると出会うのですね!研修生として一年活動したら自分田んぼが持てる、とあり、ホント??米好きの私的には、そんなおいしいシステムあるの??田んぼだよ!?!とか、そもそもしきなり田んぼはハードル高すぎない??とか、思ったのだが、飛び込んでみて、結果としては大正解の選択だった。土の力、自然の力ってすごいですね。初めてお米作りに取り組んだのにこんなにおいしくできた。そして自然のなかでの活動は本当に気持ちが良い。心が段々クリアになり、体も幾度もの筋肉痛に見舞われながら、ぼよぼよが少しずつ減ってきている(笑)。先日の収穫祭で晴れて六九号自作人認定書を頂き、自作人のスタートを切った。

来年は研修田んぼの隣で、一畝の田んぼに取り組むことになる。ついでに畑で野菜作りも始めた。まだ不安もあるけれど、幸いにもNPO法人にはユニークで幅広い知識をお持ちの面白い先達が六八人もいる。色々聞いて実践して、自然に寄り添って生きる自作人になりたい。皆様、末永くよろしくお願ひします。



自己紹介 ジャン

小藤智宏

会の皆様、こんにちは。簡単に自己紹介します。生まれは千葉県の房総半島で、実家の周りは今もそうですが、自然がいつぱいで何もありません。幼い頃の家は、茅葺き屋根で汲み取り便所、五右衛門風呂、板の間に正座してちやぶ台でご飯を食べていました。当時、ニワトリを飼っていた

て小屋から外に出したり戻すのが自分の仕事でした。生んだ卵を小屋に取りに行くのも仕事でした。年若いニワトリは、じいさんがしめて食卓に出してくるのが普通でした。おやつと言えば、ねえちゃんが残してきた給食パンや自家製あられ自家製牛乳アイスなどでした。のんびりとした環境で育ったせいか、性格もそのようになったのかなあと思っています。

小学生の頃だったと思うんですが、家の田んぼの田植え、稲刈りを手伝うようになり、手伝いはつまらなく、ザリガニを集めたり、おやつ時間しか興味があつたように記憶しています。ちょうどその頃、家の改装工事をするようになり大工さんが家にいつぱい来ました。大工さんって何でも出来てかっこいい人だなあ、と幼心に思い将来は大工さんになりたいと思っていました。

幼い頃のお話はこれくらいにして、高校までは実家暮らしで、それから大学を出て、就職しました。以前から山が好きで、山小屋のアルバイトをしたかったため、会社を辞め、それからアルバイト生活が色々続きました。その生活の中で山岳会に入りクライミングしたりして、普段の生活では味わえない生きてる実感を感じました。今はほとんどしてませんが、思い出すとワクワクします。

畑と田んぼ環境再生会を知ったきっかけは、今の会社の帰り道、行きつけのやきとり屋で見た神奈川新聞でした。たまたま会の記事が載っていて、ほろ酔い気分が連絡しました。自然の野菜には昔から興味があつたんで、今思えば良い巡り合わせだったのかなあと思っています。

そして、長かったようでも短かった田んぼ研修が終了しました。自分の中では田植えが一番きつくと、すぐに腰が痛くなり、また二日酔

いの影響もあつてかとても辛かったです。でも他の研修生が一生懸命やっている姿を見て勇気づけられました。良き仲間と共に研修が出来、本当に楽しかったです。

今回、自分たちで作った米を家で食べました。いつもは1日炊飯器で炊くのですが、近くのホームセンターへ行ったらガス台で炊けるかまどという物が売っていたので、早速購入。甘い匂いができて期待しながら食べました。思っていたほど感動的ではなかったです。たぶん炊き方が悪かったのではと思いつつ次回またチャレンジしてみます！最後に、今回大切なことを教わりました。自分たちの手で苦労して作った米一粒一粒のありがたみ、また生き物や大地の恵みにありがとう。



## 収穫祭 ベンネームフラワージャック

秋の空は気まぐれで  
あたしをざわざわさせますが  
あんなにもふわふわだったあたしの田んぼも  
本日無事丸裸となりました

バッタとカエルが天変地異で  
必死の形相をしておりますが  
お家と遊び場と食糧が  
大事なものは皆一緒です

あたしの心が今穏やかなのは  
ひとつの飽きが終わったからで  
こもる季節の寂しさよりも  
丸裸を喜んでいるのです

下草はまだ死んではおらず  
復興を遂げるでしょうが  
新しい巡りの始まりを  
みんな感じております

寂しい気持ちになる季節  
みんなが眠るその前に  
少しだけ祭りをして眠ろう

秋の空は気まぐれですから  
みんながざわざわいたします  
みんながざわざわいたしますから  
秋の空はきまぐれです

月夜の晩にはならずとも  
今宵は昌代とここで寝そべり  
月夜を楽しみたいのです  
丸裸を楽しみたいのです

月はいつもまんまるで  
すべてを見せているようで  
姿を変えて飽きさせないよう  
あたしたちに気配りしています

ぐるぐる回るこの全体に  
振り回されても踏ん張れるのは  
お月さんの優しい気持ちが  
今日もあるからなのでしょう

寂しい気持ちになる季節  
みんなが眠るその前に  
少しだけ祭りをして眠ろう



新戸畑に四〇名が結集し収穫祭が実施された。昨年は雨で新磯公民館に逃げ込み難を逃れたが、今年は部屋が取れず天気が非常に心配だった。しかし、新戸Hさんより「晴れ女の私が行くのだから天気は大丈夫！」とのメールが入り非常に心強かった。さらに塩田U夫妻より「昼からは菅

# 4代目理事長

田島 幸雄

# テハテハ伝言板

業あるから途中で引き揚げますが、朝は夜明け前からも構わない！何時にでも行って準備に協力する！」との熱血メールが飛び込んで来た。元気が出た。

夜明けと共に人が集まりはじめ、会場は少しづつ整って行った。3つのカマドを掘り、網をセット、大中のテーブルを沢山置いた。十時には準備が整った。カ

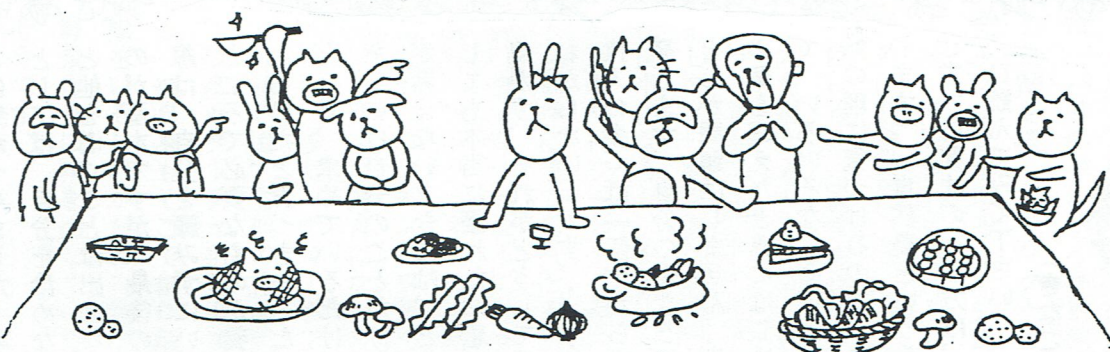
マドでは数年前に会員が長竹の山奥で一週間かけて作った炭に火がつけられた。私達に取ってはダイヤモンドのように貴重な炭だ！テーブル上にはそれぞれが気持ちを入れて作った「持ち寄り」が所狭しと並んだ。その素材は自分で手に掛けた物も多かったはずだ。持ち寄りの内容は写真

尾山Hさんが全員の胸に名札を貼り付けた。顔と名前が判つていれば後日のお付き合ひにも色々役立つ事だろうという作戦だ。私達は現場、お祭り、ML、イベント、会報誌、HP、FB、手紙などで繋がりが、交流しているけど、実際に顔と顔を突き合わせてウンジャラコンジヤラ楽しく話す

のがやはり一番だろう。昼前からSさんの仕切りで餅つきが始まりキナコ、大根おろし、海苔などで食べた。尾山のMさんはソーラークッカーを持ち込んだ。冬でもあれだけ暖まるのだから夏の災害時などには威力発揮しそう！ ああいう物を会員が試していて、私達がそれをこういう機会に見

られるという事は素晴らしい事だと思う。今年の収穫祭では、特に会員の自発性が目立った。誰かの決めた事にシブシブ従ってはいは楽しさは半減だ。頼む方も全く実には億劫な話で、小心者の私なんかは気が滅入ってくる。しかし、今年は「酒は用意しなければ！」「餅はつくん

だ！」「鍋は自分がやる！」という人が続々と現れて活気付いた収穫祭になった。「やれる人が「やりたい事を」「やりたい様に」という気風がさらに高まって我がNPOも世の中ももっとウハウハになるだろう！



# 本の紹介

「がんに効く生活」

(ダヴィット・S. シュレ

ーベル著、NHK出版)

この本の内容は、将来を約束されていた若い精神科医であった著者が、三十一歳の時、脳腫瘍を発病、近代医学を集約した最善の治療を受け、治癒したと思つた頃にガンが再発。これをきっかけに西洋医学の治療以外にも目を向け、人間が持つている防衛力を強めることを研究し、やがてガンを克服するまでを綴つたものです。この事からもわかる様に、この本の魅力は、著者がアメリカの最先端の医療現場にいた医師であり、また、東洋医学にも造詣が深い研究者であり、しかも、自身がガン患者であることです。そのため、膨大な医学論文を読んでガンのメカニズムと原因を研究するだけでなく、食事、心のケア、

運動など、生活習慣全般を見直し、自分で出来る統合医療の方法をわかり易く解説しています。しかも、著者自身の仕事の成功と離婚、ガン告知の暗転、親兄弟など親しい人に病気を伝えることの難しさ、手術後のプロポーズと再婚、息子誕生の喜びと孤独、再発の絶望、恐怖の克服など、自身の発病ドキュメントと平行してガンの対処法が書かれているので、生きる事の意味についても深く考えさせられる内容となっています。読み終えて感じたことは、この本はガン患者だけが読む本ではないということ、す。自分の中にある生命の価値と美しさに気づき、より意識的にライフスタイルを選ぶことは、ガンから身を守ることでだけでなく、生きる喜びを深く味わうことにつながります。そして、その生き方は、自分だけではなく、大地、空気、水、そしてあらゆる生き物にとっても有益だということに

気づかせてくれます。多くの生命とのつながりの中で私たちは生きています。地球が病んでいては、健康に暮らせるはずがありません。社会の在り方、私たちのライフスタイル、生き方、生命の価値を考えていく上で示唆に富む内容となっています。ぜひ多くの人に読んでいただきたい「いのちの書」です。(クルミ)



## 「自然農から

農を超えて」

(川口由一著、

カタツムリ社)

福岡正信さんの自然農法、木村秋則さんの自然栽培、炭素循環農法など、いろいろな出会がありました。私はやっぱり川口由一さんの自然農が大好き！この本は、川口さんの講演録で、そのエッセンスがいっぱい詰まっています。

よく読み返していますが、最近特に心に響く箇所を引用します。「僕には、自分を救えないうちは他も救えない、自分を治めなければ、他も治められないという強い信念がありました。だから、まず自分のことをしっかりしたいと思ひ、それに徹しました。ところが、自分のことに一生懸命になっているときは自分の答えがでなかったのに、他の人のことに一生懸命になっているときに、ふと自分の答えに気づいたんです。・・・どのつまり、最後のところ自分で自分が救われるかどうかは、自分を超えて他のことに思いやれるかどうかにあるのだと思います。こうした心は、他を導く立場のところで養われるのだと気づきました。他人の病気を治してあげ、求める人に道を示してあげ、方法を教えてあげ、田んぼでお米が元気に育つように手を貸してあげ、というふうに、他を生かす中で自分も育ち、生か

される。他を救うことによつて自分も救われていくことに気がつきました。順序としては、自分を治めないと他を導くことは出来ないのが基本ですが、最後の線は、自分を顧みずにいるところで必要なものが養われるのだと気づきました。だから、求めているだけ、あるいは自分のことだけしか考えないときには、どうか考へないときには、どうしても本心に優れた知恵が働かず、それがどうしてもわからないんです。・・・現代人の多くは『個』から出発します。自分の生きることでしか問題にしません。その個を超えたときにはじめて、いろいろな生命理・自然の理に気づけるのだと思います。「自然農という生き方」に興味のある方は、ぜひ読んでみて下さい。

(まなこ)

